福岡県の主な農産物の生産状況

令和５年２月 15 日現在
（専技情報より抜粋）

◇麦類◇
12 月中旬以降低温で経過しており、生育は 11 月播きで平年並み、12 月播きはやや遅れています。
茎立ち期は昨年より早く２月４～５半旬と予想されます。
１月中旬以降、曇雨天が多く、麦踏みや土入れ、追肥作業は遅れ気味で、雑草の発生がやや目立ちます。
排水溝や排水口の整備等を徹底し、表面排水を促しましょう。
茎立ち期前までに踏圧・土入れを実施し、生育を確保しましょう。
２回目の追肥(穂肥)は、食料用大麦と裸麦は２月下旬、小麦は２月下旬～３月上旬に基準量を施用しましょう。
今後、タデ類やカラスノエンドウなどの広葉雑草の発生が予想されるため、早めに対策を実施しましょう。

◇イチゴ◇
２番果房の出荷は、１月中旬頃から開始、寒波の影響によりその後の出荷量は伸び悩んだものの、２月上旬から中旬にかけ増加する見込みです。
１月下旬の寒波と２番果房の着果負担により、草勢はやや低下しています。３番果房の出蕾・開花がはじまっていますが、バラツキが大きい状況です。
病害虫は、ハダニ類が増加傾向で、灰色かび病や菌核病が散見されます。
天候と株の状態に応じた温度や電照管理、摘果等を徹底し、適正な草勢の維持に努めましょう。
収穫が終了した果梗は速やかに除去しましょう。
摘果や換気等、果実の品質低下防止対策を徹底しましょう。
収穫株、親株の病害虫対策を徹底しましょう。

◇カキ◇
冷蔵「富有」の出荷は、２月上旬で終了しました。ヘタスキやフジコナカイガラムシによる軟果の発生が少なく、出荷量は前年、平年より多いですが、単価は前年、平年より低いです。冷蔵「富有」の軟果の発生は平年よりやや少なく、果実品質は平年並みです。
粗皮剥ぎを実施し、カイガラムシや枝幹害虫の密度低減を図りましょう。

「早秋」等では炭疽病の罹病枝切除を徹底しましょう。

◇施設ギク◇
「神馬」等秋ギクの 11～１月の出荷量は、スプレーギクへの品目転換により大きく減少しています。一方、販売単価は前年・過去５年平均をやや上回る 103%となっています。
２～３月出荷作型の生育は、比較的安定した天候により順調です。病害虫の発生も少ないです。
白さび病は、低温・多湿条件が続くと発生しやすいため、夜間の温度を適切に維持し、湿度の上昇を防ぎましょう。
また、日差しが強くなると葉焼けやしおれの発生が懸念されるため、適切な換気と潅水管理を徹底しましょう。

◇肉用牛・豚・鶏◇
和牛去勢の枝肉価格及び省令価格は、12 月の最需要期の反動で低下する時期に加えて、物価高による消費者の買い控えから前年比および過去５年平均ともに下回りました。
豚枝肉価格は、全国旅行支援の開始などの外食需要の増加や、厳しい寒さが続いて増体不足等で全国的に出荷量が減ったことから、前年比、過去５年平均比ともに上回りました。
鶏卵価格は、鳥インフルエンザの感染拡大による供給不足が大きく影響し、１月末に 310 円と過去最高価格を更新し、前年比 200%、過去５年平均比 201%と大きく上回りました。
飼料価格の高騰が続いており、良質な自給粗飼料確保に向けた早春追肥の取り組み実施や、酪農では清潔な牛床管理や早期治療などの乳房炎対策、和牛繁殖経営では子牛の保温等の下痢対策など、経営ロスを少なくする取り組みを徹底しましょう。
また、国内における鳥インフルエンザの発生は続いており、引き続き野鳥侵入防止対策を徹底しましょう。